



平成29年度 横浜市立宮谷小学校 学校だより 6月号

みやがや

＜学校教育目標＞

響き合う豊かな学びの中で自分を見つめ互いに思いやる子を育てます

【知】 学び合う楽しさを知り、問題解決に向け主体的に取り組む子を育てます。【学び合い】

【徳】 社会や学校のきまりを守り、やさしく思いやりのある子を育てます。【思い合い】

【体】 お互いの生命と体を大切に、生涯を通してよりよく健康な生活ができる子を育てます。【気づき合い】

【公・関】さまざまな人々と豊かなかかわり合いを大切にしながら、わたしたちのまちに誇りをもって生活する子を育てます。

【かかわり合い】

小さな幸せ

学校長 奈良輪 孝雄

新年度が始まり、2か月が過ぎました。子どもたちは、新しい学級にも慣れ友達と意欲的に学ぶ姿勢が多くみられ嬉しく思います。子どもたちを見ていると、素敵な姿にたくさん出会います。

最高学年の6年生は、登校班のリーダーとしてはもちろんのこと、5月まで朝の準備、給食の片付け、掃除の時間に1年生の教室へ行き優しく声をかけていました。掃除の時間、1年生は安全への配慮から机を2人で運ぶことになっています。6年生は1人で運んでもよいのですが、1年の教室では、6年生も2人で運びます。誰にも言われていないのですが、1年生のお手本として行動しています。率先垂範を示しているのです。給食のときは、片付けの時間に6年生は来てくれます。時間になっても苦手な食べ物に苦戦している1年生がいます。6年生は自然にその子を囲んで温かいまなざしを送っています。がんばって食べ終わると、6年生から自然に拍手が起きました。1年生は、とても嬉しそうでした。

社会科見学のため校外に出ることがあります。文献で学ぶことも大切ですが、直接体験する学習を大切にしています。見学をするといろいろなことを発見しますが、新たに疑問も出てきます。その時は、自分から職員の皆様へ質問できることも宮谷小学校の子どもの学ぶ意欲の高さを現しています。他にも様々な素敵な姿があります。授業中、消しゴムを落とした子がいます。その消しゴムを拾って渡してあげると、「ありがとう。」と感謝していました。

宮谷小の子どもたちの表情はとても明るく、温かさでいっぱいです。私も、子どもたちのおかげで、温かく優しい気持ちになるのです。私自身、大きな人助けということではできませんが、宮谷小学校の子どもたちの温かい行いを見ると、「どんな小さなことでも、自分にできることは意外とたくさんあるのかもしれない。」と思えるようになるのです。今日一日笑顔で人と接することができたとか、言葉を選んで相手と会話できたとか、廊下のごみを一つ拾ったなど、小さなことが大切であり、その小さな積み重ねで大きな変化が現れると思うのです。小さな善い行いをしようと思うと、困っている人に気付いたり、落とし物をした人にぱっと気付いたり、自分にできることが自然と目に入ってくるようになるのです。当たり前のような小さな幸せが、本当は大きな幸せであることに最近気が付きました。

宮谷小の子どもたちが「一日一善」行くと、892の幸せが生まれます。小さな幸せを大切にする学校でありたいと思います。

